



位置商標についてのインド事情

本誌7月号で、インドの非従来型商標(Non-Conventional Trademark)について書きました。今回は、商品における標章(図形等)の表示位置が意味を持つ位置商標(Positional Mark)について解説します。位置商標の最大の特徴は、標章そのものに識別力がない場合でも、商品の特定位置に常に付されることによって識別力を獲得する点にあります。この型破りな商標はもっと注目されてよいと思います。以下、位置商標の概要と、インドにおける現状について解説します。

位置商標の概念はドイツの商標法理論に源をたどることができ、WIPOは2006年に位置商標を非従来型商標として認めました。

位置商標の標章の識別性は、それ自体に元から備わっている固有のものでも、使用を通じて取得できるものでもよいです。商標登録出願人は、商品における標章の特定の位置を示す必要があります。それには図面または写真を用い、言葉による説明を含めることもできます。図面上で、保護を主張しない部分は破線または点線で表示します。出願に含まれた情報だけでは保護対象が十分に明確でない場合には、官庁は、商品における標章の位置の追加説明を要求できます。



次に、いくつかの重要な実例を用いて、位置商標とはどのようなものかを説明します。

1. リーバイスのジーンズの右ポケットにある赤いタグ

米国の衣料品メーカー Levi Strauss & Co.は、下記写真にあるその位置でタグ LEVI'S を使用しており、さまざまなカテゴリーで商標登録を行っています。

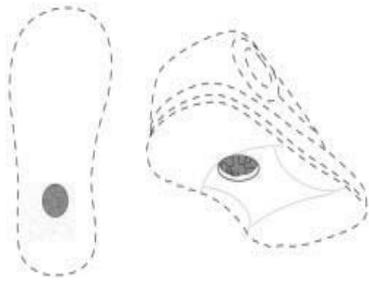
そんな中、スイス企業 Colloseum は、独自のマークが付いた同様の赤いタグを同じ位置につけてジーンズの販売を開始しました。2013年、欧州司法裁判所は、ジーンズの右ポケットにある赤いタグは LEVI'S ブランドの不可欠な構成要素であり、したがって位置商標として認識されると判断しました。

2. ジャケット(上着)のボタンホールにあるハサミのマーク

PAOLONIFAMILY HOLDING 社(イタリア)による位置商標が、WIPOにより No. 018207879 として登録されています。

この位置商標は、下図にあるように、衣料品(ジャケット)のボタンホールの上に置か





れたハサミ形の標章で構成されています。図面に示されたジャケットの形状や配置は商標の一部ではなく、位置商標の位置を決める目的で表示されています。

3. 靴底にある位置商標

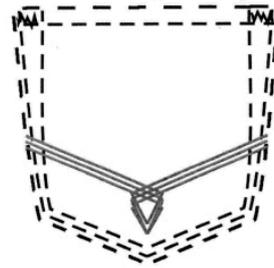
INTERNATIONALSHOES GARVALIN社（スペイン）の靴底に配置された位置商標が、WIPOによりNo. 017363201として登録されています。

この位置商標は、上図にあるように、オレンジ色の円で構成されており、その中に曲線と小さな円で構成される幾何学的形状が描かれています。この位置商標は靴底の底面に付けられています。靴の形（点線）、凹凸形状の四辺形とその内側の半円形状（両方とも靴底の外側）は、商標の一部を構成していません。それらは、位置商標の位置を正確に示すためにのみ記載されています。

4. ズボンのポケットのステッチ

CREATION GROSS GMBH社（ドイツ）による、ズボンのポケットに配置された位置商標が、WIPOによりNo. 017944935として登録されています。

この位置商標は、上図にあるように、後部ポケットの下部で使用されます。3つの直線のステッチの縫い目が中央で交わり、そこで各線が扇形を形成しています。破線は商標の位置を示しており、その一部ではありません。



以上、欧州司法裁判所とWIPOの例を示しましたが、インドにおいて、「位置商標」という用語は現段階ではまったく一般的ではありません。インドでも非従来型商標の出願傾向は過去10年くらいは遡れ、2017年の規則改正で非従来型商標の登録出願プロセスが導入されました。しかし、位置商標についての出願の具体的な動きは多くありません。

一方で、世界をリードしつつある新興国のひとつとして、そして世界のビジネスにとり最も魅力的な市場のひとつとして、国際的にバランスのとれた知財保護の必要性はインドにおいて高まっています。それに呼応する形で、近年のインドでの商標保護の進歩は、受け入れられる型破りな非従来型商標の範囲が広がってきていることを示しています（本誌2020年7月号参照）。位置商標は法や規則には具体的に定義されていないのではありませんが、種々の型破りな商標が登録されてきていることに鑑みると、位置商標の登録がインドでも認められるのは時間の問題であると容易に予想されるところです。

筆者紹介



シティー・マルホトラ (Kshitij Malhotra)

Global IP Indiaの創設メンバーで事務所代表です。インドの弁護士&弁理士双方の資格を持ち、特許を含む知的財産関連の法的経験が10年以上あります。専門は化学工学で、デリー弁護士会所属。首都ニューデリーに住み、英語、ヒンディー語、パンジャブ語が堪能で、日本語に関する基礎知識も有します。趣味は、ドキュメンタリーを観たり、読書したり、詩を書いたりすること。学生時代にはクリケット部員でしたが、今はたしなむ程度で、もっぱら観戦。